

# 人の役に立つ仕事をしよう そして、社会に貢献したい

公認会計士 広川敬祐 さん 創価大学経営学部卒業

創価大学は、毎年、司法試験、公認会計士国家試験、教員採用試験等で多数の合格者を出す大学として知られている。先

ごろ行われた法科大学院修了者を対象とする新司法試験でも八名の合格者を出したが、このような実績を支えているのは、先輩・後輩のきずなだ。

「先輩は後輩の面倒をみ、後輩は先輩を尊敬するという伝統があります。僕も先輩には大変お世話になりました」

と話すのは、今から二十三年前、三年生で公認会計士国家試験合格の快挙を成しとげた広川敬祐さんだ。

「公認会計士試験を受ける場合、専門学校に通うのがふつうかと思えます。創価大学には、国家試験研究室というものがあり、試験に合格した先輩が後輩の指導をしてくれます」

公認会計士に合格するには、およそ四〇〇〇時間の勉強が必要だといわれている。

「先輩がわざわざ家庭訪問までしてくれました。その熱意に応えるため、なんとしても合格



しようと思いました」

広川さんは、大阪の鶴橋出身で、在日韓国人二世として育った。そして、創価学園入学。中・高時代は寮ですごした。公認会計士の資格をとろうと思っ

たきっかけも先輩の影響だったという。「高校のときに、国家試験の難

創価大学では、先ごろ行われた新司法試験に8名の合格者を出しました。これまでの司法試験でも累計で124名が合格しています。また、2005年度は、教員採用試験合格者3年連続300名突破(累計で4600名)、公認会計士試験合格者2名(累計で149名)、税理士試験合格者5名(累計で113名)を出しています。これらは私学でもトップレベルの実績です。

の一九九八年に独立して、大手企業の経営コンサルタントや会計システムの構築などを行うヒロ・ビジネス・ソリューションズを立ち上げた。

現在は、セミナーの講師や専門書の執筆など、社員教育の専門家としても活躍している。有料のセミナーを実施したときは、必ず受講料の10%程度を国連難民基金への寄付やユニセフ製品の購入にあてる。世界の平和や子どもたちの教育に、少しでも役立ちたいとの思いからだ。

「自分なりの夢や目標をもつことが大事だと思います。先輩にお世話になった分、自分も後輩たちのためにがんばろう、そして、人の役に立つ仕事をしよう」という創価の精神を忘れず、これからも努力していきたいと思っています」

先輩の期待に応え、後輩のために道を開く。そして、社会に貢献したい。そうした一人ひとりの努力と気構えが、国家試験合格者を多数輩出する力の源となっているのだ。

企業セミナーで講師を務める広川さん

関を突破した先輩から体験談を聞く機会がありました。愛読書が漫画だと話された先輩もいて、親しみがわき、自分もやればできるのではないかと思います」

公認会計士の資格を取得し、創価大学を卒業したあとは、外資系会計事務所やコンピュータソフト会社等に勤務。八年前



Keisuke Hirokawa

ひろかわ・けいすけ  
一九六二年、大阪生まれ。八三年、公認会計士第二次試験合格。八五年、創価大学卒業。外資系会計事務所を経て、九八年 Hiro Business Solutions 設立。日本公認会計士協会東京会常任幹事(「コンピュータ委員会担当」)。